

【公募型】 令和 2 年度 客員研究員 研究報告書

滋賀大学経済経営研究所

氏 名	氏名（ふりがな）	所属学科・職名
	李珊（り・さん）	南山大学大学院社会科学研究所・博士後期課程

期 間	令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日
調査・研究のテーマ	金融市場における混合寡占競争と預金準備率政策・参入規制政策
研究成果の概要 (中間成果も可)	<p>本研究においては銀行部門の特性に基づき、銀行産業において各金融機関が寡占的に競争を行うモデルを構築し、金融機関における混合寡占市場と金融政策について分析した。1 社の公的金融機関と n 社の民間金融機関が存在する市場を想定し、各金融機関が混合寡占競争するとき、公的金融機関が完全国有化されている状態および公的金融機関が完全民営化された状態における均衡をそれぞれ導出し、それらの状態における預金量、利潤、および社会厚生を比較した。その結果、少なくとも本論文のように n 社の金融機関が存在する経済においては、民営状態の方が社会厚生が高まるという結論が導かれる。本論文では、政策に関する分析として、預金準備率操作の効果と参入規制政策について考察した。分析の結果、政府が預金準備率操作を低下させるような金融緩和と政策を行うことによって、社会厚生が高くなることが明らかになった。また、参入規制政策については特に、金融機関数と金利の関係を分析してみると、金融機関数が増加すると預金金利が上昇し、貸出金利と金利差が減少することがわかった。</p> <p>現在は、部分民営化政策に関する研究に取り組んでいる。金融機関の部分民営化政策について考えた結果、部分的民営化のケースにおける社会厚生は、完全国有化におけるそれを上回ることが示された。併せて、預金準備率操作政策についても検討した。その結果、預金準備率と最適民営化率とは負の相関関係となることがわかった。また、金融緩和と政策によって各企業の利潤の増加、および社会厚生の増加がもたらされることも明らかになりつつある。</p>
研究成果発表の計画 (学会報告及び学術誌への投稿)	<ul style="list-style-type: none"> ・ Li, Shan, “Mixed Oligopoly and Monetary Policy in the Financial Market,” <i>Studies in Applied Economics</i>, 現在審査中 ・ Li, Shan, “Mixed Oligopoly and Partial Privatization Policy in the Banking Sector,” 現在投稿準備中 ・ 太田代（唐澤）幸雄・李珊「混合市場における Monti-Klein モデルの展開と公的金融機関の民営化政策」, 『南山経済研究』, 南山経済学会, 2021 年 3 月刊行予定